

まめの木プロジェクト 総合政策学部政策科学科 3年 浪花悠大

「スポーツを通じてすべての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる社会の創出を目指す」というスポーツ基本法の理念は、現代の日本におけるスポーツ政策において重要な因子として意義付けられており、自治体レベルにおいても基本法に基づく計画を指針とした施策が行われている。国として理念を統一することは必要不可欠であると考え、スポーツを振興する上で各地域に様々な問題がある中、そうした差異を考慮することなく、数値上・政策実施の手法を国全体で同じものに設定することは本当に有効なものであろうか。実態から乖離したやみくもな目標設定は、有効な手段とは考えにくい。我々はこの点に問題意識を持ち、秋田でのプロジェクトを通じて、解決の糸口を探った。

2016年3月より約半年間をかけて「ブラウブリッツ秋田まめの木プロジェクト」に取り組んだ。FLP スポーツ・健康科学プログラム、地域・公共マネジメントプログラム小林ゼミとブラウブリッツ秋田との協同であるこの活動は「ブラウブリッツ秋田シルバーかだるプロジェクト」として2013年の秋から始動した。高齢者同士の交流を促し、つながりの再構築を図ることを目標に「グラウンドゴルフ大会」や「体操教室」といったスポーツイベントを企画した。本プロジェクトで我々が目指した「元気な街秋田」とは、全世代が交流することである。そこでブラウブリッツ秋田との共同プロジェクトが3年目を迎える中で、子供世代を取り込むことによりつながりの拡大を図った。前年度まで行っていた「グラウンドゴルフ大会」や「体操教室」に加え、「講演会」、「8人制バレーボール大会」、「きりたんぼ教室」といった新たなイベントに取り組んだ。その結果、前年度の参加者211名を大きく上回る480名が参加するほどの大きなプロジェクトとして展開することができた。

スポーツ基本法、スポーツ基本計画においては、スポーツを通じた新規コミュニティ創出や地域活性化等、様々な分野においてスポーツへの期待が高まっている。しかし、実際にスポーツ政策を実施する現場では、各スポーツ種目が有するそれぞれの特性（楽しみ志向なのか、それとも競技志向なのか）、スポーツイベントを開催できる大前提として現地協力者との信頼をいかに構築できるのか等の課題が浮き彫りとなった。このように、スポーツ政策の実践には多々の困難が伴い、スポーツ振興の政策が描く図式とは異なる「一筋縄ではいかない」現実がある。ただ、アンケート結果による参加者の満足度、ヒアリング調査から実感することができた初対面の人同士において交流の可能性などから、我々が目指す「元気な街、秋田」実現に向けての確実な進歩が見られた。

Jクラブが地域プラットフォームを形成する可能性の是非についてまだ未確定な部分が多く、課題も存在する。だからこそ、我々のプロジェクトでそれを研究、解明していく価値があると考え。今後とも、本プロジェクトの本来の目的である全世代を通じた「元気な街、秋田」に合わせて、スポーツ政策の実効性における「Jクラブによる地域プラットフォームの形成」についても研究を継続する。